

## 研究の成果と課題

### 研究の歩み

#### (1) 学習研究部会の取り組み

態度目標「気づき、考え、実行する」学習に取り入れ、主体的に学習に取り組む児童の育成を図るため、以下の4点を充実させ、授業づくりを行った。

①問題解決的な学習課程の中で、課題の与え方や教材を工夫し、子ども自身が自らの意志で教材に関わるようにさせる。**【気づき】**

課題提示→気づき・問いの共有→自力解決→集団解決→価値の共有→振り返り、といった問題解決的な学習課程を取り入れ、児童が主体的に取り組めるようにした。気づきの場면을重視し、課題提示では、実物や絵や図、表やグラフを見せたり、情報不足の問題文を見せたりといった工夫を行った。気づき・問いの共有の場面では、分かっていることや分からないこと、今までの学習との違い、既習事項の何が使えるかなど、個々の気づきを共有し、自力解決に向け、見通しを持たせるようにした。

②一人ひとりが自己の考えを持つようにさせる。経験や既習事項を基に、資料活用、実験・操作活動等を通して、根拠を明確にする。**【考え】**

気づきの共有を通して得た見通しに沿って、ノートやワークシートに自分の考えを書かせる。根拠を明確にするよう、「～だから・・・と考える。」「理由は～だからである。」といったようにまとめ方を指導した。また、言葉だけでなく、図や式、表やグラフ等も用いるようにさせた。

③話し合いの形態や、教師の働きかけを工夫し、お互いを尊重し、認め合えるようにさせる。

「伝え合い」の活動を充実させていく。**【実行する】**

学習のねらいや効果を考えて、ペア・グループ・全体等、話し合いの形態を選択した。話し合いの中では、特に「聴く」ことを重視し、友だちへの質問や考えをつなぐ発言を積極的に評価しながら指導を行った。

④新たな問いを見い出したり、発展的な学習に生かしたり、他教科の学習や生活に生かしたりする。**【実行する】**

まとめや振り返りの中で、疑問が生じたり、次にやってみたいことを考えたりすることで、新たな気づきが生まれ、次時の授業や家庭学習、他教科の学習へつなげていくようにする。

#### (2) 青少年赤十字活動部会の取り組み

学校生活のすべての場面で、「気づき、考え、実行する」という態度の定着を図るとともに、思いやりをもち生活できる児童の育成を図るため、特別活動部と家庭・地域連携部の2つのグループに分かれ、研究を進めた。

#### 特別活動（児童会活動）グループ

##### ①委員会活動の充実

自分たちの生活を自分たちで改善し、生活しやすい学校を作るため、各委員会の中で、課題

を見つけ、対策を考え代表委員会で提案するようになった。

また、委員会活動の取り組みについて、児童会だよりや放送、掲示板を利用して紹介し、全校で共通理解のもと、取り組んでいくようにした。

## ②集会活動の充実

高学年児童のリーダー性の育成に焦点を当てた取り組みをさせる。集会の準備の仕方など、縦のつながりを重視し、これまでの取り組みを踏襲する。児童の気づきを重視し、改善点は積極的に支援する。

## ③縦割り活動の充実

縦割り遊びの内容について、他学年からも意見を求め、内容を決定した。今年度から、運動会の開閉会式の並び方も縦割りで並ぶことにした。秋の落ち葉はきや11月の児童集会後のお弁当集会も縦割り班で行う予定である。児童が主体となり、様々な活動を運営することで、考え、実行する力を伸ばすようにした。

## ④代表委員会の活性化

クラスで気づいた課題を代表委員会に提案し、全校で共通理解を図った。児童会及び各クラスで取り組み方を話し合い、次回の代表委員会で振り返るようにした。課題だけではなく、各クラスでの取り組みを紹介し、自分のクラスの取り組みに生かすようにさせた。

## 家庭・地域連携グループ

### ①学習習慣・生活習慣の取り組み

昨年度作成した、「湯田小学びのルール」を再確認し、学習に対する構えを自ら作っていくようにさせた。6月の2週間、チェック表を使って、学習・生活のチェックを行った。結果をもとに、自分の生活について振り返らせた。クラスの傾向を把握し、学年便りや学級懇談会等を利用し、保護者に知らせた。

また、玄関の掲示板を利用し、改善すべき点や取り組みの成果などを知らせ、児童が自ら意識して取り組めるようにした。

### ②あいさつ運動

学級ごとに門に立ち、あいさつすることで活性化しようと児童から意見が出され、児童総会で決定された。あさがお運動を行う週に、月6年、火5年、水4年、木3年、金1・2年が登校した順に門に立ちあいさつを行った。また、保護者も門に立ち、児童に声をかけてくれた。

### ③花いっぱい運動

保健委員会が中心となり、苗の定植を行った。毎日の世話を欠かさず行っている。また、南中学の花いっぱい運動と連携し、花を大切にしていくことを、代表委員会で確認した。低学年が朝、高学年が帰りに花の様子を見て、水やりが必要な時に行っている。

### ④朝の1分間ボランティア

始業前に1分間、音楽を流し、自分が気づいたボランティアを行う。自分たちの身の回りの学習環境を整え、一日のスタートをしっかりとれるようにした。

## 成果と課題

### (1) 学習研究部会の取り組み

気づきに重点を置き、課題の与え方を工夫したことで、学習意欲が高まり、主体的に学習に取り組む児童の姿が見られた。また、授業の初めに気づきの共有を行うことで、多くの見方に触れ、見通しを持って、自力解決を行うことができた。さらに、振り返りの場面では、観点を示すことで、分かったことをまとめ、次時の課題を意識することができた。

友だちの意見につなげる意識を持たせることで、「聴く」ことができるようになってきている。また、根拠を明確にして考えることが徐々に身につけてきている。

それぞれの学年で発達段階にあわせ、同じ骨組みで授業づくりをおこなったことで子どもたちの力がついてきたと感じる。継続することで、さらに学習意欲や表現力を高めることにつながっていくと考える。また、1時間の時間配分や教材研究の難しさ、タブレット利用を含め、教師の授業力向上へも引き続き取り組んで行く必要がある。

### (2) 青少年赤十字部会の取り組み

委員会活動においては、常時活動以外に独自の取り組みについて話し合い、活動することができてきた。また、委員会掲示板を設置し、利用も増えてきている。縦割り活動では、上級生が、リーダーとしての役割を考えて、下級生のことを思いやり取り組むことができた。また、代表委員会で、現在の学校の様子から改善すべきことや、各クラスで取り組んでいることについて、意見が出され、全校で共有することができた。

しかし、児童減少により一人一人の負担も増え、時間的な余裕もないため、教師の支援が多くなってしまいう場面がある。自分から考えて取り組むことや子どもたち同士のなかで、活動を広げていくことは今後も指導を続けていきたい。

湯田小学びのルールを確認し、全校で取り組むことで、児童が学習に向かう構えができ、スムーズに学習を進めることができた。また、生活チェックにより、生活習慣の課題を子どもたちが自ら捉え、改善に向け、努力する姿が見られた。あさがお運動と連動し、学級ごとにあいさつ運動に取り組むことで、以前よりもあいさつが活性化してきている。

家庭にも「気づき、考え、実行する」態度が将来の自立につながることを理解してもらい、共に取り組みを進めていけるように、引き続き、実践を積み重ねていきたい。

